



**2023年3月期 第2四半期  
決算補足説明資料**

2022年10月31日（月）

ウェーブロックホールディングス株式会社  
証券コード：7940  
（東証スタンダード市場）

ウェーブロックホールディングス社長の石原でございます。  
2023年3月期第2四半期の決算説明をさせていただきます。

■ 売上高 11,427百万円（前年同期比+5.3%、上期予想比△4.8%）

- ・ マテリアルソリューション事業は原材料価格高騰に伴う売価転嫁値上げや、今期より連結に取り込んだ（株）エイゼンコーポレーションの売上高計上等により前年同期比増
- ・ アドバンステクノロジー事業は主に自動車向け販売を行う金属調加飾フィルムが好調に推移するも、仕入れ販売を行うディスプレイ用拡散板販売の不振により前年同期比減

■ 営業利益 448百万円（前年同期比△16.5%、上期予想比△0.3%）

- ・ マテリアルソリューション事業は原材料価格の高騰により前年同期比マイナス
- ・ アドバンステクノロジー事業は金属調加飾フィルムの販売の好調と、下期に予定する一関工場の稼働停止に備えた備蓄製造により利益増加

■ 当期純利益 2,289百万円（前年同期比+328.7%、上期予想比+4.5%）

- ・ 第1四半期において、クリアネイト（株）（旧：（株）ウェーブロックインテリア）の株式譲渡により特別利益2,528百万円を計上。これにより同社の全株式の譲渡完了
- ・ 保有資産の売却に伴い、過年度計上した減損損失について回収可能性があると判断し、法人税等調整額（益）（繰延税金資産）69百万円を計上

まずは全体のサマリーでございます。

売上高は11,427百万円ということで、前年同期比+5.3%でございます。ただ、上期の予想に対しては5%弱のマイナスということになりました。

各セグメントごとをみてみます。

マテリアルソリューションは原材料が上がっている状況の中で、一部価格転嫁をさせていただいている。これによって売上が上がっているという状況にあります。加えて、今期よりエイゼンコーポレーションを連結に取り込んでおりますので、その売上がアドオンされていることによって、マテリアルソリューション全体としてはプラスになっている状況です。アドバンステクノロジー事業については、主力製品は引き続き堅調ですが、売上としてはそれなりのインパクトがあるディスプレイ用拡散版が前年同期比で大きく減っているため、アドバンステクノロジー事業の売上としては減少しましたが、グループ全体では5%程度の増収ということになりました。

営業利益は448百万円、前年同期比では16.5%のマイナスとなりました。ただ、上期予想利益に対してはほぼ予想通り。原材料高、円安含めて厳しい環境のなか、なんとか想定どおりの利益が計上できた結果となりました。

マテリアルソリューションは引き続き原材料価格高騰のなかで利益を積み上げることが難しい状況ではございますが、アドバンステクノロジー事業につきましては、主力製品の金属調加飾フィルムの販売が非常に好調でありまして、ディスプレイ用拡散版の売上の大きなマイナスでアドバンステクノロジー事業の売上は減っているというところではあります。利益につきましては堅調に増加している状況です。

当期純利益は2,289百万円ということで、前年同期比大きくプラスになっております。こちらは第1四半期において既に説明をしておりますが、クリアネイトの株式譲渡の特別利益が25億強計上されているところで、前期比大きくプラスとなっております。

加えまして、第2四半期にグループの保有資産を売却しております。こちらの保有資産は過年度に減損処理をしているものなのですが、物件売却により税金の回収可能性があるという判断をし、法人税等調整額を利益方向に7千万円弱計上したことにより、大きなプラスとなっております。加えて上期の予想に対しても4.5%のプラスという状況になっております。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期累計 (実績)	2023年3月期 第2四半期累計 (実績)	前年同期比 増減率	2023年3月期 第2四半期 累計予想 (7/29公表)	予想比	2023年3月期 通期予想 (7/29公表)	進捗率
売上高	10,847	11,427	+5.3%	12,000	△4.8%	24,400	46.8%
営業利益	537	448	△16.5%	450	△0.3%	590	76.0%
経常利益	701	655	△6.6%	570	+15.0%	710	92.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	534	2,289	+328.7%	2,190	+4.5%	2,240	102.2%
1株あたり 当期純利益(円) <sup>1</sup>	54.55	271.35	-	259.61	-	265.53	-

1. 発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2022年3月期第2四半期は9,789,770株、2023年3月期第2四半期は、8,435,849株です。

こちらは簡易PLということで、サマリーで説明したもの、こちらを前期の第2四半期との比較、あとは今期の上半期予想との比較、通期予想の進捗率を示しているものですので、説明は割愛させていただきます。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期 (実績)	2023年3月期 第2四半期 (実績)	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	10,847	11,427	+579	+5.3%
マテリアルソリューション	8,517	9,257	+739	+8.7%
アドバンステクノロジー	2,346	2,182	△ 163	△7.0%
その他	△ 16	△ 12	-	-
営業利益	537	448	△ 88	△16.5%
マテリアルソリューション	667	456	△ 210	△31.6%
アドバンステクノロジー	206	339	+132	+64.3%
その他	△ 337	△ 348	-	-

こちらはセグメントごとということで、売上と営業利益をマテリアルソリューション、アドバンステクノロジーごとで数字を記載しております。サマリーのほうでも説明いたしましたが、売上につきましては、マテリアルソリューションは前年同期比増収ということで、7億強のプラスとなっております。アドバンステクノロジー事業につきましては、こちらも先ほど説明しましたとおり主力製品は堅調でしたが、ディスプレイ用拡散版の大きなマイナスにより全体としては163百万円のマイナスということになっております。営業利益につきましては売上と逆の形となっております。マテリアルソリューションは原材料価格上昇に加えていくつかの製品で売上がきちんと作れていないということもありまして、営業利益は厳しい状況となっております。アドバンステクノロジー事業につきましては、先ほどより説明しております状況のなかで、対前年同期比で132百万円の営業利益プラスということになります。

## セグメント概況（マテリアルソリューション事業）

Wavelock Holdings Co., Ltd.



### リビングソリューション：

- ホームセンター向け販売は一昨年の巣ごもり需要からの反動減に加え、ホームセンター自体の客足が伸びず、売上高、利益ともに前年同期比減

### ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション：

- 建設・仮設工事向けにおいて、防音シートは買い替え需要により好調に推移するも、OEM生産への切り替え遅れや一部製品からの撤退、原材料価格上昇分の売価転嫁遅れより売上高減少。利益獲得も苦戦
- 一方、大型商業施設向けの防煙垂壁用高透明不燃シートは好調に推移

### パッケージングソリューション：

- ヨーグルト容器向け販売の堅調や原材料価格上昇分の売価転嫁値上げにより売上高伸長も、利益においては原材料価格の高騰が値上げに追い付かず前年同期比大幅減。前期上市した業界初である植物由来のバイオマスプラスチック配合ミルクポーションは他食品包材へも展開

### アグリソリューション：

- エネルギーコスト上昇等により農業資材への投資意欲は低迷するも、輸入資材である土壌改良剤や農業用保温資材、遮光ネットが好調に推移

Copyright©Wavelock Holdings Co., Ltd. All Right Reserved.

5

簡単に各セグメントごとの状況をレビューしたいと思います。

マテリアルソリューションは、左側のグラフ、売上高は原材料価格高騰による値上げということを含め、あとはエイゼンコーポレーションが連結に入ったということで、第1四半期、第2四半期ともに前年同期を超えております。ただ、今申し上げましたとおり連結効果や値上げによるものでありまして、全般的には売上の数量としては必ずしも芳しいものではなかった状況になります。

下の方に文字で説明がありますが、特に第1四半期を中心として、このセグメントの主力製品を販売するリビングソリューションのホームセンター向け販売が非常に厳しく、また、ほかの商材も厳しいものが多いということもあり、右側のグラフをご覧いただいてもわかりますとおり、特に営業利益率が第1四半期、第二四半期ともに下がっております。原材料価格の影響もありますが、マテリアルソリューションとして、非常に厳しい状況になっております。

そういった中でも、インダストリアルソリューションで管轄をしております、防煙垂壁用の高透明不燃シートが非常に好調に推移をしております。こちらは大型商業施設に設置する防煙垂壁というものに向けて作っているものでございますが、ガラスから樹脂への切り替えというところが進捗している中で当社への引き合いも増えているものでございます。ただ、マテリアルソリューション全体としては必ずしもまだ大きな数字の製品ではないということで、非常に厳しい環境のなかで健闘しておりますが、マテリアルソリューション全体を引っ張るほどの規模にはなっていないところがございます。

原材料価格高騰で厳しいという話だけをしていてもある意味仕方ない部分がございます。こういった中ですから、なおさら原点に戻り、我々の強みというものを再認識をし、厳しい環境でも我々が強みをもつところにいろいろな資源をシフトしていくということも含め、加えて、新たな分野、我々が今までトライをしていなかった分野、方法論、マーケティングを含めてトライをし、マテリアルソリューションとしてこの厳しい状況にある意味前向きに捉えて、いかに収益構造を変えていくのかということを地道ながら進めておりますが、簡単ではありませんし、すぐに売上利益に結び付くというものではないと認識しておりますが、厳しい環境だからこそ、様々な努力、様々な打ち手、トライ&エラーをしていくことが大事だと認識しております。



#### デコレーション&ディスプレイ（金属調加飾フィルムおよびPMMA/PC2層シートから名称変更）：

- 自動車向け金属調加飾フィルム販売においては、北米向け販売が売上を牽引。EVメーカーであるリビアンに続き、GMの高級車ブランド「キャデラック」初のEV車「リリック」のエンブレムと内装パーツへ採用され、今期から本格量産開始。両パーツともに金属調加飾フィルムの機能の1つである光透過が評価された。上海ロックダウンの影響を受けた中国および国内メーカー向け販売は徐々に回復を見込む。インド・東南アジアにおける二輪車向け販売は引き続き好調
- 自動車向け内装ディスプレイ用途の高透明2層シートにおいては、先進運転支援システムの開発ツールとして期待されるVRヘッドセット用部材販売は好調に推移するも、自動車向け販売は上海ロックダウンの影響を受け前年同期比減。利益においては、下期に予定する一関工場移設に伴う工場稼働停止に備え備蓄生産を実施したことにより、前年同期比増加

#### その他：

- ディスプレイ用拡散板は一昨年からの巣ごもり需要の反動減等を受け売上高は大幅に減少。これによりアドバンステクノロジー事業の売上高は前年同期比減。ただし仕入れ販売のため利益への影響は些少

続きましてアドバンステクノロジー事業です。

左側の売上高のグラフはサマリーでも申し上げましたが、第1四半期、第2四半期とも対前年度比減収となっております。大きな理由は、繰り返しになりますがディスプレイ用拡散板が前期と比べて大きく下がったというところがございます。ただ、主力製品の金属調加飾フィルムにつきましては特に北米向け販売が好調であります。右側の利益のグラフ、利益としては第1四半期、第2四半期とも対前年をオーバーしている状況にあります。特に第2四半期は利益が前年同期比で大きくプラスになっております。こちらは金属調加飾フィルムが好調であることに加え、2層シートが堅調でありました。また、下期に工場の移設を予定しているなか、一時工場停止に備えて下期に販売するものの在庫を積み上げている。すなわち工場の稼働が上がっているということもあり、上期において利益が想定を超える形で推移している状況にあります。

**■ IATF16949（自動車産業に特化した品質マネジメントシステムの国際規格）認証取得完了**

多くの自動車メーカーが部品の調達基準として同規格を採用。認証取得により世界規模で部品調達をしている顧客への信頼度が向上

**■ 自動車向け金属調加飾フィルムの生産能力を6割増産**

2022年中に、金属調加飾フィルムを製造する茨城県古河工場の生産能力を増強。月15万メートルから月25万メートルへ

**■ 金属調加飾フィルムを利用した自動車向け部品生産能力を4割増産**

自動車部品を製造する名古屋工場の近隣に名古屋第二工場を新設（2022年9月に稼働開始）。古河工場で製造した金属調加飾フィルムを使用し、自動車向けプラスチック部品を製造。生産能力は月2万5千台分から3万5千台分へ

アドバンステクノロジー事業につきましては今申しあげましたとおり、工場移設等の対応で多少上期下期でデコボコありますが、いずれにしても事業全体としては特に主力である金属調加飾フィルム、2層のシートが足元堅調に推移していることに加え、近い将来的にも売上拡大の可能性が高まっている状況にあります。こちらに示している3つのポイントがあります。

1つ目はIATFの認証取得完了にあります。こちらはグローバルで見た自動車産業に特化した品質マネジメントシステムの国際規格です。金属調加飾フィルムは特に海外の自動車メーカー向けが現時点においては主戦場になっております。特に海外においてはこのような品質マネジメントシステムで品質が担保できているかどうかを厳しく見てくるところもあり、こちらの認証取得によりグローバルマーケットで部品調達をしているお客様への信頼度向上や訴求力が高まると認識をしております。

下の2点は能力増強というところになります。古河の工場で金属調加飾フィルムの製造をしておりますが、今年中に生産能力を6割増強できるよう投資をしております。加えて、名古屋工場でフィルムを使った部品製造と成形工程を行っておりますが、そちらの生産能力も4割程度増強をしております。先ほど申しあげたとおり、金属調加飾フィルムは足元の堅調さのみならず、今後の受注量増大が見込まれております。そういった意味では、古河工場の6割増産、部品を作る名古屋工場の4割増産をファーストステップとし、今後は様々な形で能力増強、北米での動きが活発であることもありますので、場合によっては北米含めた海外での生産能力増強を含めて、将来的には議論をしていかなければならないと認識をしております。

- 売上高、営業利益、経常利益は7月29日に上方修正した業績予想を維持
- 当期純利益は、第2四半期実績が7月29日公表の通期予想を上回ることを受け通期予想を上方修正
- 上期において、保有資産売却に伴い過年度に計上した減損損失に係る将来減算一時差異について回収可能性があると判断し、法人税等調整額（益）および繰延税金資産69百万円を計上。通期業績予想へも反映

(単位：百万円)

	第2四半期 累計実績	7/29公表 通期業績 予想	進捗率	通期予想 修正	増減比
売上高	11,427	24,400	46.8%	24,400	-
営業利益	448	590	76.0%	590	-
経常利益	655	710	92.3%	710	-
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,289	2,240	<b>102.2%</b>	2,310	+3.1%

今後の見通しです。

売上高、営業利益、経常利益につきましては7月29日に上方修正させていただきましたが、通期の見通しについては、現時点ではこちらを維持するという認識しております。

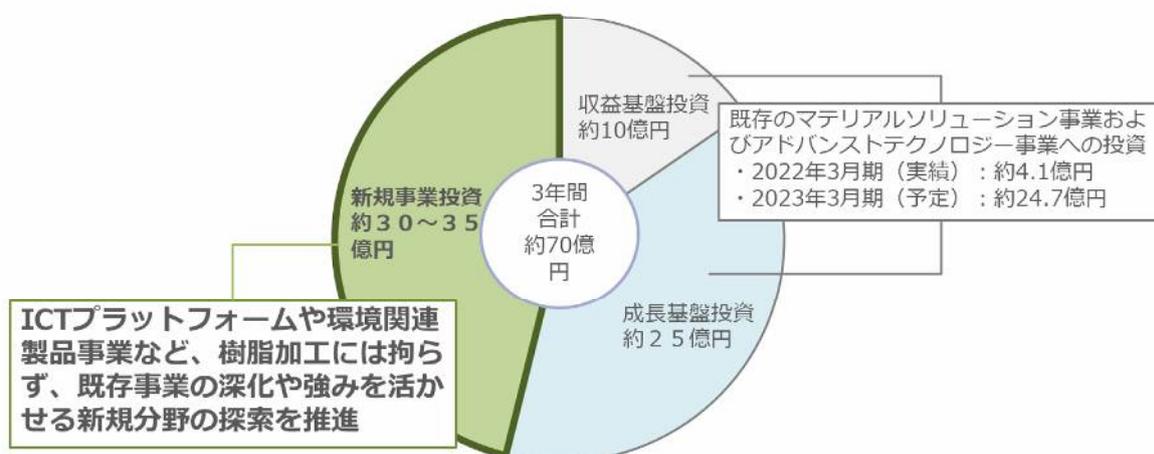
当期純利益についても大きな動きがあるわけではございませんが、こちらの表にありますように、第2四半期において既に通期の業績予想をわずかに超える状況にあります。これは先ほど説明いたしました、過去において減損損失を計上した資産を売却したことによって、法人税等調整額が利益方向に7千万ほどプラスになった影響によるものです。増加額はわずかですし特に業績修正をする必要はないと認識しておりますが、第2四半期で通期予想を超過したことを考慮して、わずかな金額ではありますが、当期純利益の通期予想を修正いたしました。

- 基本方針
  - 配当性向35%以上を目安に、単年度の業績ボラティリティに左右されない安定的な配当を維持
- 2023年3月期配当
  - 第2四半期末、期末それぞれ1株あたり15円（通期30円）
  - 配当性向は48.3%（クリアナイト（株）（旧（株）ウェーブロックインタリア）株式譲渡による影響を除いて算出）



株主還元ですが、方針に変更はございません。  
 配当性向は35%目安ですが、35%という数字よりは安定的な配当を維持するところを主眼として今後も配当について考えてまいります。  
 第2四半期末の株主名簿記載の株主様への配当は15円ということで、予想通りの配当をいたします。期末の予想は15円、通期で30円という予想は期初の配当予想から変更ございません。

- 2022年3月期から2024年3月期までの3年間に約70億円の投資を予定
- そのうち新規事業投資へは約30～35億円の投資を計画



※投資金額は事業供用開始時を基準に記載

Copyright©Wavelock Holdings Co., Ltd. All Right Reserved.

10

最後に、新規事業投資計画についてご説明いたします。

3か年計画のなかで2022年3月期から2024年3月期までの3年間で約70億円の投資を計画していきたいというお話しをしました。その中の、収益基盤投資、成長基盤投資について、前期の実績と今期の予定を書いておりますが、今期の予定も加えますと、30億弱の投資を予定しております。ですので、収益基盤投資と成長基盤投資については3か年計画のとおり、もしくはそこにアドオンする形での投資が進んでおります。

新規事業投資は30億から35億円を想定しておりますが、こちらについても、わずかですが、すでに投資がされているものもありますが、まだ金額の大きな投資にはなっておりません。ただこちらのほうも、既存事業の収益基盤を補強する、もしくは成長のための投資をしていくこととは別に、きちんとしたプランのなかで投資をしていかなければならないと認識をしております。



新規事業投資は大きく3つのストーリーを考えております。

1つ目は既存事業である樹脂加工と近い分野で、既存事業と接合する分野への投資をしていきたい。具体的には樹脂の加工といいましても、当社グループがすべての分野を網羅しているわけではございません。ですので、当社が進出をしていない分野を手掛ける同業他社との提携等、場合によってはM&A含めて、既存事業の幅を広げることが1つ目としてやっていきたいと考えております。

2つ目としては、既存事業である樹脂加工の隣接分野で、既存事業に付加価値を付与する分野への投資を考えております。例として、チームライクへの出資であったり、すでに事業として始めておりますが、地中熱の事業であります。既存事業そのものをやるのではなく、そこに何等かの付加価値を付与する、その新しいフィールドにも価値がある上に既存事業にも付加価値がアドオンできるような投資を考えております。

3つ目としては、当社の強みを活かすことができる新規分野への投資です。現時点では、農業分野にフォーカスをして様々なトライ、取り組みをしていきたいと考えております。当社グループは農業資材の提供を長年してきております。これは樹脂加工製品の提供にはなりますが、真の意味で顧客提供価値ということでは、農業従事者の生産性向上に寄与してきたということになると考えております。そういった意味で、農業分野で長年ビジネスをした強みがあると認識しており、農業従事者の売上や生産性の向上、サステナビリティをサポートできるようなビジネスを幅広くトライをしていければと考えております。昨今では農業のIoT化やAI農業であったり、グループ事業として取り組んでいない分野も含めてトライができるのではと思っております。農業分野は地味ではあるかもしれませんが、昨今注目されている食料安全保障や、日本国内での農業生産性向上により今後の日本人の生活が豊かになることを含め、多少理念的な部分があるかもしれませんが、社会的に意義があるビジネスフィールドではないかと思っております。我々が培ってきた人脈、ビジネスモデル等含め、それらをフックにしながら様々な形での農業分野でのトライをしていければと考えております。

以上が第2四半期の決算の説明となります。

先ほどから申し上げておりますが、原材料含めて厳しい状況が続いているのは事実ではありますが、今日ご説明しましたとおり、厳しい分野がある反面、非常に光が差し込み将来有望なフィールドがあると認識しております。厳しいビジネスフィールドもいろいろな工夫やトライを重ねることによって、より強くより筋肉質な事業にしていくなかで、近い将来きちんと売上・利益を獲得できる、グループとしての事業ポートフォリオを持ちながら成長していきたいと思っておりますし、最後に説明しました新たな分野への取り組みもアドオンするなかで、ウェーブロックグループの成長にまい進をしていきたいと思っておりますので、引き続きのご支援をお願いいたします。

本日はご視聴ありがとうございました。

# APPENDIX

- 資産合計 25,974百万円
- 自己資本比率 61.5% (前期末56.6%)

(単位：百万円)

資産合計	+1,718	負債・純資産合計	+1,718
流動資産	+1,341	負債	△ 545
現預金	+782	営業負債	+117
営業債権	+57	有利子負債・社債	△ 1,572
棚卸資産	+809	未払法人税等	+691
その他	△ 307	その他	+218
固定資産	+377	純資産	+2,264
固定資産	+309	株主資本	+2,161
その他	+67	その他の包括利益他	+102

- ・ (株) エイゼンコーポレーション連結によるのれん+230、保険積立金+225
- ・ クリアネイト(株)(旧ウェブブロックインテリア)株式売却等による投資有価証券△361

- ・ 当期純利益+2,289
- ・ 配当支払い△127

■ 現金及び現金同等物 2,743百万円 (2022年3月期末より782百万円増加)

2023年3月期第2四半期		(単位：百万円)
税金等調整前当期純利益	3,036	
減価償却費	293	
減損損失	114	
投資有価証券売却損益(△は益)	△ 2,528	クレアネイト(株)(旧： (株)ウェーブロックイン テリア)の株式譲渡
運転資本増減	△ 628	
法人税等の支払額	△ 266	
その他	753	
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>774</b>	
固定資産の収支	△ 557	
投資有価証券の収支	2,608	・ クレアネイト(株) (旧：(株)ウェーブ ロックインテリア)の株 式譲渡
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	△ 349	・ (株)チームライクへの 出資
その他	75	(株)エイゼンコーポレー ション株式の取得
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>1,777</b>	
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>2,552</b>	
借入金・社債の収支	△ 1,644	
配当金の支払	△ 127	
その他	△ 7	
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,779</b>	

本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。  
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。